

富士山地区有害鳥獣捕獲 委託事業について ～現状と新たな取組の推進～

静岡森林管理署 湯浅敏史

1 富士山地区における森林被害と防除の状況



鹿による苗木食害



鹿による角研ぎ、皮剥ぎ被害

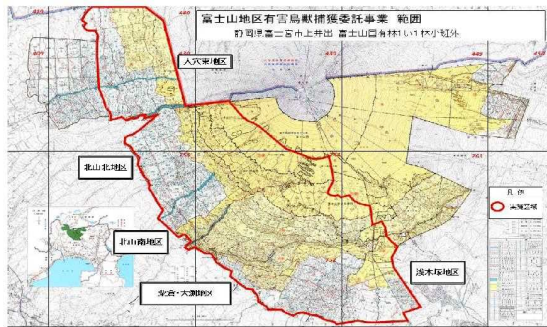


ブナ林を10年間柵で囲った状況
柵の中は笹が繁茂、柵の外は下層植物が鹿の食害で衰退した状況



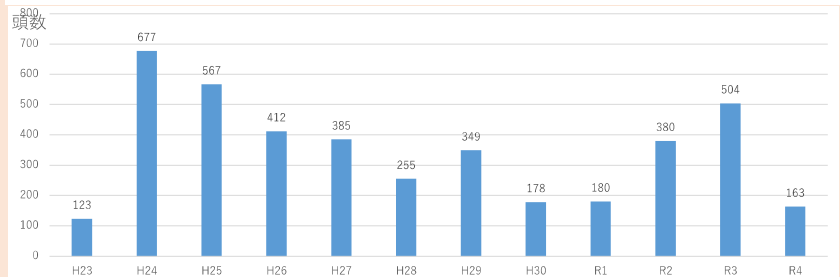
新植の造林地は、柵を設置して鹿の食害を防除

2 富士山地区における鹿捕獲状況



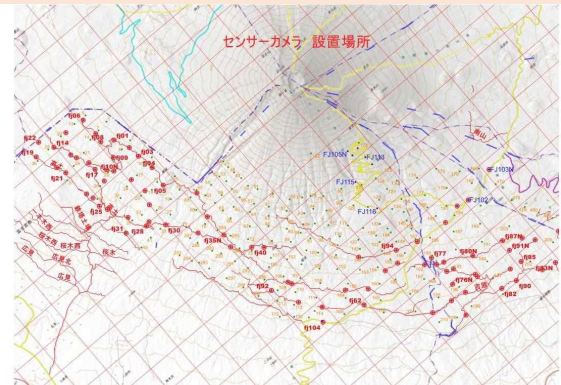
赤線で囲った範囲で捕獲事業を実施

富士山地区の鹿捕獲実績 (H23-R4)



注1：平成23年度から令和元年度までは9月から2月までの事業期間限定であったが、令和2年度からは通年で事業を実施している。
注2：令和4年度は令和4年12月末現在の捕獲数である。

3 鹿捕獲におけるICTの活用

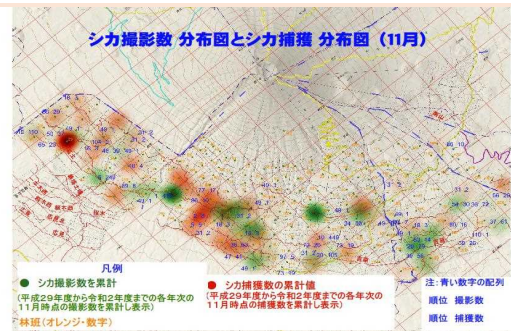


事業地内にセンサーカメラを80基設置



SIMカメラからリアルタイムに送信される鹿の撮影データをタブレット端末で撮影場所を確認し、即座に移動して忍び猟を行う。撮影データは、登山者なども撮影されることから事業の安全性を確保するにも有効である。

4 撮影・捕獲データの活用



年度	撮影場所	撮影日時	撮影種別	撮影回数	撮影種別	撮影回数	撮影種別	撮影回数	撮影種別	撮影回数
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030
2031
2032
2033
2034
2035
2036
2037
2038
2039
2040
2041
2042
2043
2044
2045
2046
2047
2048
2049
2050

・過去（2017年～2020年・10月～3月）にセンサーカメラで撮影された膨大な撮影データ（21,414件）と捕獲データ（931頭）を整理し、毎月GISを使って地図上に見える化を図り、最も鹿が出現する場所（季節移動）の特定を行った。
・受託者とは、整理した地図情報を共有し、過去の狩猟経験と合わせて、重点的に捕獲する場所を特定することで捕獲効率を高めることを行った。

検討委員会において、有識者からご教示をいただき、過去のデータの活用や本年度の捕獲状況等から次年度以降の個体数管理に向けた事業の方針等を取りまとめる。

5 今年度の試み

富士山麓の森林は、捕獲圧により鹿の生息頭数は減少してきているが、造林地での苗木の食害、下層植物の衰退がみられており、今年度はICTや過去の膨大な撮影・捕獲データを整理し、地図に表示することで見える化を図り、捕獲効率を高める試みを行った。

6 今後について

今後も捕獲事業を継続し、個体数管理に向けた、データの収集・分析を行い効率的な捕獲により捕獲圧を高めることで、シカの森林被害を抑制し健全な森林を維持する。